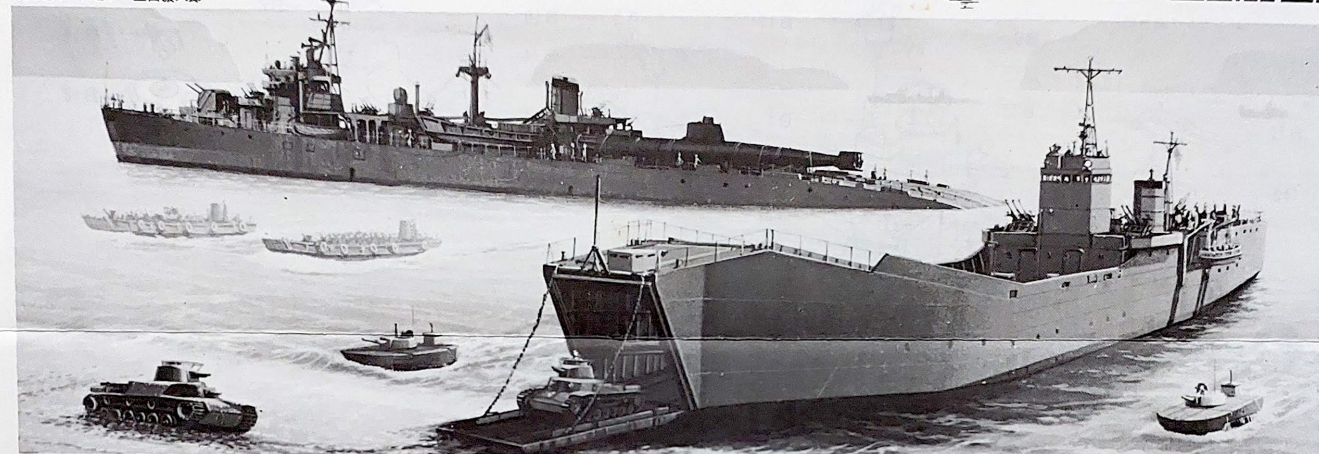


輸送艦

1/700ウォーターラインシリーズ
日本1等/2等輸送艦
JAPANESE MILITARY TRANSPORT SET

イラストレーション・上田毅八郎



第2次大戦は物量の戦いと言われ、補給が勝敗の鍵を握ることになりました。太平洋の戦いでも同様で、補給作戦の重要性に気づいた日本海軍が、戦争なかばになって急提開発したのが、1等、2等の2種類の輸送艦でした。

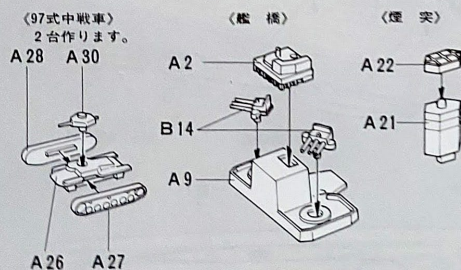
1等輸送艦は、昭和18年4月に建造計画がスタート、その主な目的は前線への強行輸送で、制海権、制空権のない海域でも高速を利用して武器弾薬や食料などを輸送し、最前線近くの海岸に陸揚げして味方の陸上部隊を支援しようというものでした。基準排水量は1500トン、最高速力は22ノットで約260トンの物資を運ぶことができました。最大の特徴は、後部甲板が艦尾に向かって水面までゆるやかに傾斜し、左右両舷に1列ずつレールが敷かれていたことで、これによって搭載した運貨船などを航行しながらでも発進させることが可能でした。武装は12.7cm連装高角砲1基、25mm3連装機銃3基などを装備。また水中聴音機、水中探信儀、爆雷など対潜兵器も充実していました。特務艇「特」、略して「特々」の名称で昭和18年秋から建造が始められ、終戦

までに21隻が完成、甲標的や回天も搭載することになり、フィリピンなど南方地域や硫黄島、沖縄など各方面への補給作戦に広く使われました。

2等輸送艦は、昭和18年6月に計画が開始された上陸作戦用の戦車運搬艦です。その任務は、作戦地域の海岸にのり上げてランプウェイを開き、短時間で搭載戦車を自力で上陸させようというもので、日本版LSTと言える艦種でした。基準排水量は950トン、艦体前部はほぼ箱形の戦車格納庫となっており、上甲板、中甲板を合わせて95式軽戦車なら14台、97式中戦車なら9台、水陸両用戦車の特2式内火艇なら7台を搭載、接岸後8分間で全戦車を上陸させることができました。エンジンにディーゼル使用のものとタービン使用のものがあり、SB艇と呼ばれ、海軍向けと陸軍向け合わせて69隻が建造されました。1等輸送艦同様、その活躍の範囲は南方地域の各島や硫黄島など、多方面にわたっています。

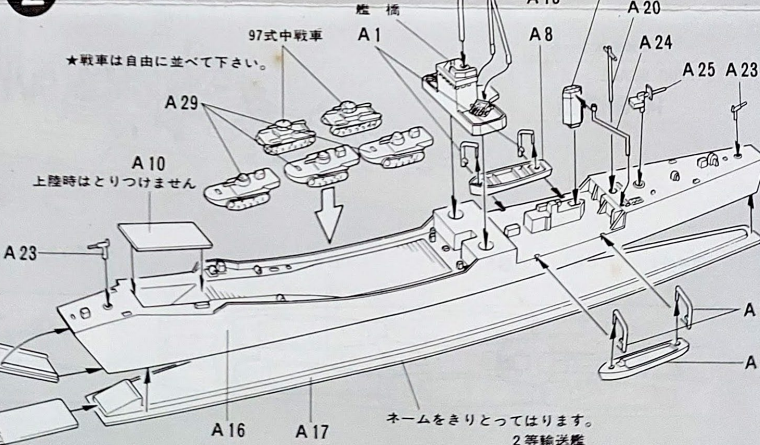
2等輸送艦

1 部品のくみ立て



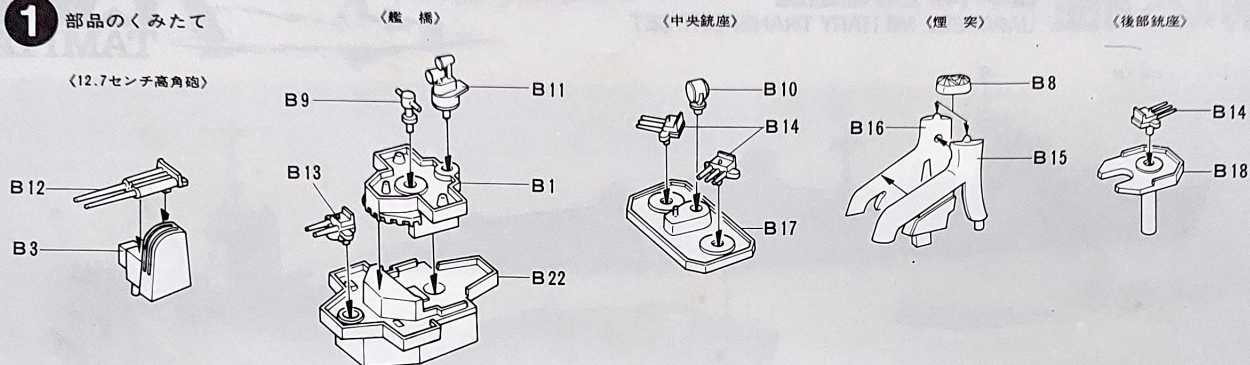
2等輸送艦 ネーム
1/700 SCALE
2等輸送艦

2 船体のくみ立て

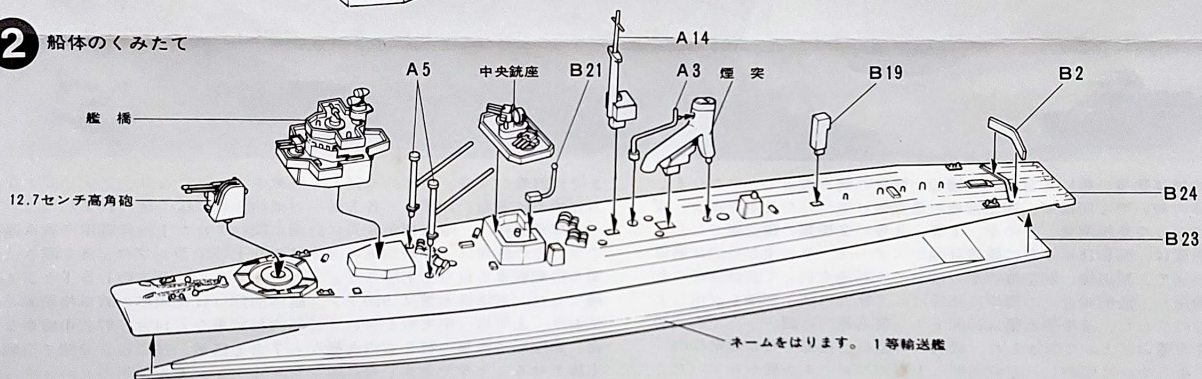


1等輸送艦

1 部品のくみだて



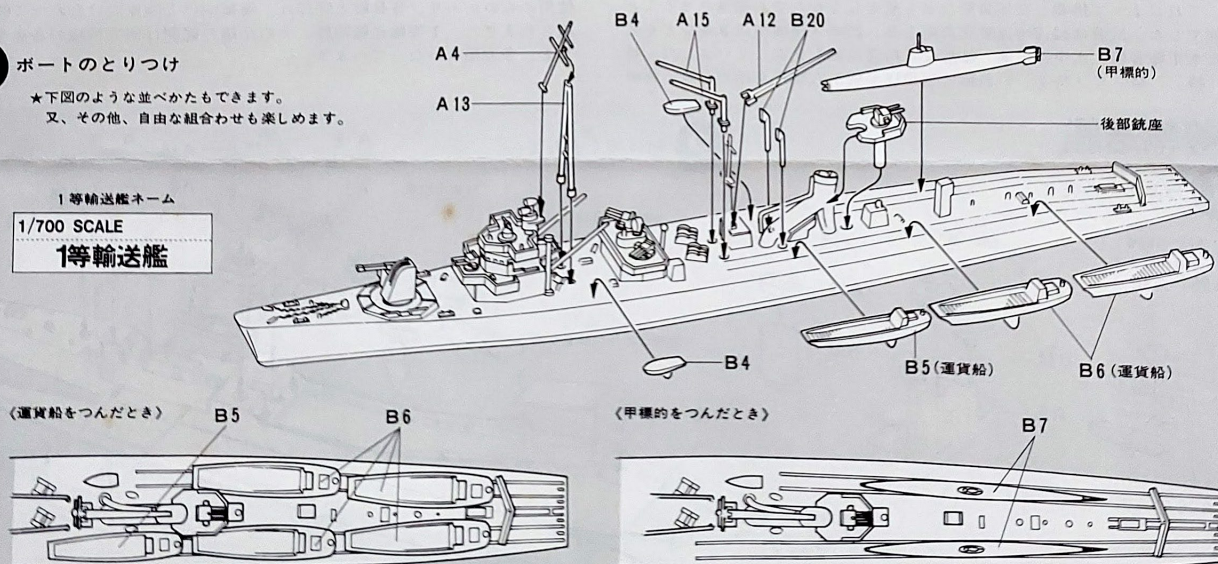
2 船体のくみだて



3 ポートのとりつけ

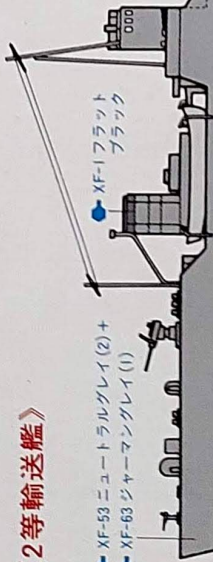
★下図のような並べかたもできます。
又、その他、自由な組合わせも楽しめます。

1等輸送艦ネーム
1/700 SCALE
1等輸送艦



《2等輸送艦》

- XF-53 ニュートラルグレイ(2) +
● XF-63 ジャーマングレイ(1)



《2等輸送艦データ》

主機ディーゼルエンジン 吃 水 2.89m
基準排水量 950トン 最大出力 1,200馬力
水 線 長 75m 速 力 13.4ノット
最 大 幅 9.1m

《2等輸送艦搭載》

特型運貨船(10m型)

カッター(9m型)



特二式内火艇

九七式戦車

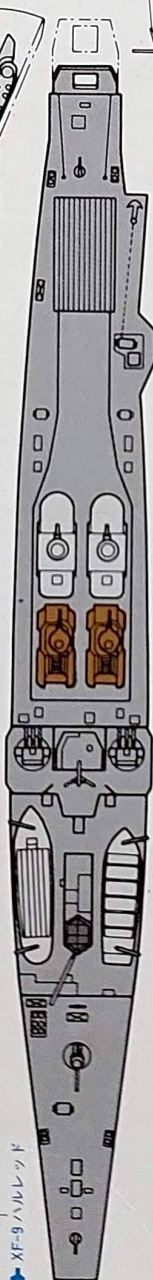


- XF-49 カーキ

- XF-53 ニュートラルグレイ(2) +
● XF-63 ジャーマングレイ

《1等輸送艦データ》

基準排水量 1,500トン 吃 水 3.6m
水 線 長 94m 最大出力 9,500馬力
最 大 幅 10.2m 速 力 22ノット
同型艦数 21隻



機銃はすべて ● XF-56 メタリックグレイ

《1等輸送艦搭載》

甲標的

- XF-53 ニュートラルグレイ(2) +
● XF-63 ジャーマングレイ(1)

《1等輸送艦》

- XF-53 ニュートラルグレイ(2) +
● XF-63 ジャーマングレイ(1)

● XF-1 フラットブラック

● XF-9 ハルレッド



カッター(6m型)

13m特型運貨船

14m特型運貨船



★ MODELING SKILLS HELPFUL IF UNDER 10 YEARS OF AGE
TAMIYA AMERICA, INC. 2 ORION, ALISO VIEJO, CA 92656 MANUFACTURED IN JAPAN